



報道関係各位

株式会社留学ジャーナル

留学ジャーナル『2015年夏休み留学動向』を発表
夏休み留学予定者は過去10年で最多更新の見込み
～就活スケジュール後ろ倒しが影響し、大学4年生の留学が大幅減～

雑誌「留学ジャーナル」の発行元であり、日本最大級の留学エージェントでもある株式会社留学ジャーナル（本社：東京都新宿区信濃町34 JR信濃町ビル、代表取締役社長：安藝 清、以下「留学ジャーナル」）は今夏の短期留学申込み動向および留学予定の大学生を対象に留学意識調査を実施し、「2015年夏休み留学動向」としてまとめましたので、以下の通りご報告いたします。

＝調査結果トピックス＝

【「2015年夏の短期留学動向」データより抜粋】

■今夏の短期留学予定者は対前年5%増加。過去10年で最多更新の見込み

大学生は微増（前年比3%）ながら全体の5割を占め、2014年は勢いのあった高校生の増加率は1割に満たなかったものの、社会人が約2割増加しています。留学予定者は過去最多を更新した昨年の数を上回る見込みです。

■就活スケジュール後ろ倒しが影響か。大学4年生の夏季短期留学申込が大幅減

大学生の申込数をみると、前年と比べて1～3年生では大きな変動はなく、4年生だけが6割の大幅減少との結果がでています。8月からの採用活動開始が影響している様子がうかがえました。

■「グローバル体験の第一歩」として中高生にも定着

景気の好転で、社会人の短期留学が増加傾向

中高生の留学期間は2週間が前年同様最多となりました。今年は短期間でもより長めのプログラムへの申込みが増加しており、グローバル体験への第一歩としての理解が定着してきたことがうかがえます。社会人では特に20、30代の申込みが増え、増税前の2013年並みに戻りつつあります。

【「夏の留学を検討している大学生への意識調査」データより抜粋】

■留学予定者の7割「企業のグローバル化を意識」。大学の留学支援施策も後押しに

企業のグローバル化を意識して、短期間でも留学を就職に役立てたいと考えているようです。また、今回の留学に影響を与えたこととして「日本の大学の留学支援の充実」もあげられており、各大学の施策の経過が見え始めています。

■長期留学にあたっては帰国後の就職活動に不安も

長期留学にあたっての就職活動に関する意識を尋ねたところ、「留学経験が評価されるか」について「就職活動の準備不足になるのでは」が2位、「国内のインターンシップに参加できない」が4位となり、就活スケジュールの変化に伴って、長期留学を選びづらくなっている状況にあることがわかりました。

◆出版・印刷物等へデータを転載する際には、必ず「留学ジャーナル」とクレジットを入れ、下記までご一報くださいますようお願いいたします。

◆ここに掲載いたしました内容は抜粋版です。より詳しくまとめた完全版をご希望の方は、下記までお問い合わせください。

※本資料は文部科学記者会、厚生労働記者会で配布しています。

～本件に関する報道関係者様のお問い合わせ～

株式会社 留学ジャーナル 広報担当：石澤、久保

TEL：050-3033-4122 FAX：03-5312-4469

E-mail：pr@ryugaku.co.jp URL：http://www.ryugaku.co.jp

Facebook 公式ページ「留学ジャーナル」：https://www.facebook.com/RyugakuJournal

■調査結果サマリー

①「2015年夏の短期留学動向」編

【データ概要】

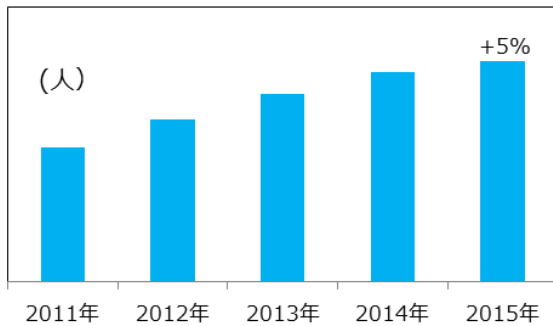
調査対象： 2015年7月～9月までに、8週間以内の短期留学プログラムでの*出発予定者
※8週間以内の弊社留学プログラム
 調査データ： 2015年5月31までの調査対象プログラム申込者データ

1-1. 夏の短期留学 申込み状況<全体>

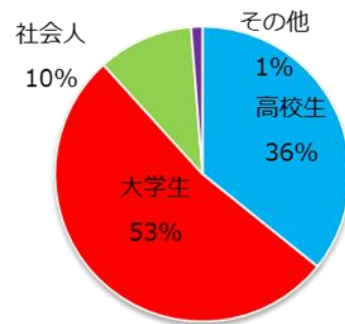
■2年連続、過去10年で最多を更新の見込み

申込者数は2014年と比較すると5%増加、2013年と比較すると17%増加し、過去10年で最多数を更新する見込み。申込者の半数は大学生が占めている。

夏の短期留学申込者の推移



夏の短期留学申込者の年代割合

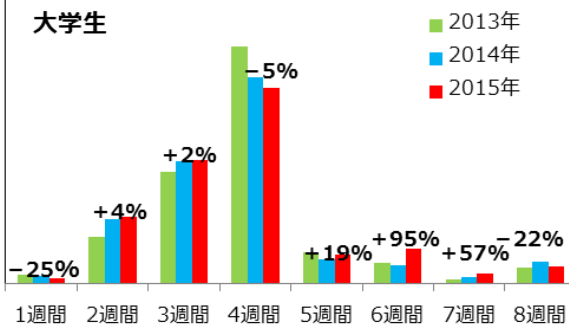


1-2. 夏の短期留学 申込み状況 <大学生>

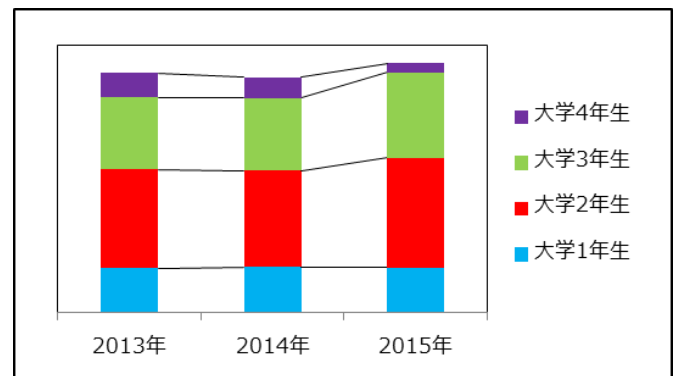
■4年生の夏季短期留学申込が大幅減

大学生全体では4週間の留学申込者数が最多ではあるが、2013年、2014年から比較すると年々減少傾向が続き、-5%の結果となっている。このマイナス分を大きくしたのは4年生で45ポイント減。4年生は留学期間に関わらず、件数そのものが減少している。一方、1～3年生はいずれも増加傾向にある。

大学生



学年別申込者数変化



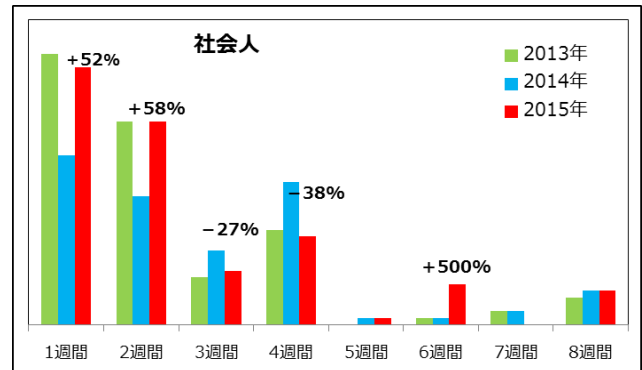
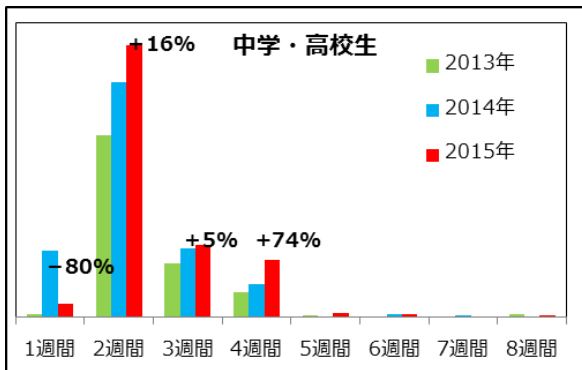
1-3. 夏の短期留学 申込み状況 <中高生・社会人>

■「グローバル体験の第一歩」として中高生にも定着。

社会人の申込みは増税前と同等数まで回復

【中高生】前年同様、2週間の留学申込者数が最多で、対前年 16%と増加している。これは弊社が主催する中高生向け引率付きプログラムの参加者増加が牽引していると思われる。今回大幅な減少がみられたのは1週間の留学申込者数で、対前年 8割減、一方で、4週間の留学申込者数は7割の増加を示している。

【社会人】1週間の留学申込者数が前年比 52%増、2週間が 58%増と大幅にアップしている。特に、20代、30代が 2013年並みに戻ってきており、2014年の増税後、徐々に景気が好転していることと、有休を利用して短期間の留学をする社会人が増加していることが影響していると思われる。



②「夏の留学を検討している大学生への意識調査」編

【データ概要】

調査対象：留学ジャーナルカウンセリングセンター（東京・大阪・名古屋・福岡・岡山）に8週間以内の留学相談に訪れた大学生

調査人数：140名（男性40名、女性100名）

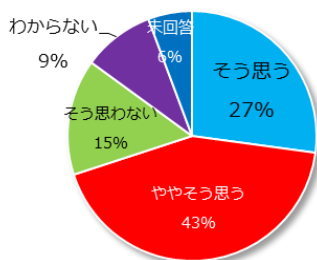
調査期間：2015年4月1日～5月31日

2-1. 今回の留学にあたっての意識調査

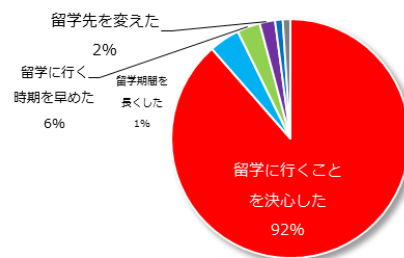
■留学予定者の7割「企業のグローバル化を意識」。大学の留学支援施策も後押しに

「企業のグローバル化の流れは、あなたの留学に影響を与えていますか？」に対しては、全体の70%が、「そう思う」「ややそう思う」と回答し、うち92%が「留学に行くことを決心した」と答えた。さらに今回の留学に影響を与えたことについて尋ねると、短期間の留学といえども最終的なゴールを就職において、検討している層が多いことがわかった。また、大きい数字ではないが、「日本の大学の留学支援制度の充実」も、昨年とくらべ4%増加しており、各大学が日本人を海外に送り出す留学施策などに大幅に予算を投入している経過が見え始めている。

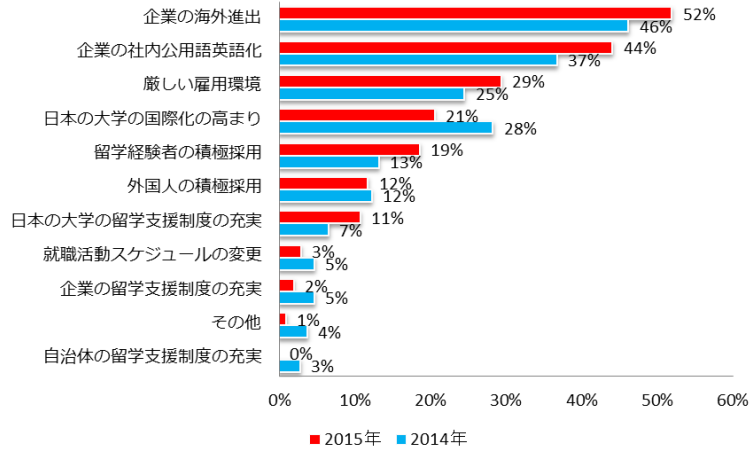
■企業のグローバル化の流れは、あなたの留学に影響を与えていますか？



→「企業のグローバル化の流れは、あなたの留学に影響を与えていますか？」という問いに「そう思う」「ややそう思う」と答えた方にお伺いします。それはどのような影響ですか？



→特に今回の留学に影響を与えたことはなんですか？※回答項目をあげた中から複数選択(上位3つまで)

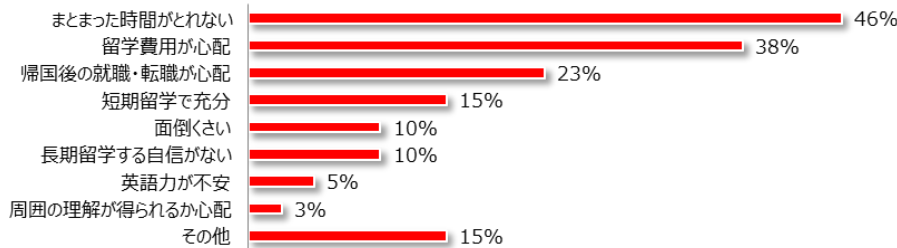


2-2. 長期留学と就職活動について

■長期留学にあたっては帰国後の就職活動に不安も

今回の留学後の長期留学への希望を尋ね、「望まない」と答えた学生に理由を聞くと、「まとまった時間が取れない」(46%)で、昨年の2位から順位を上げトップとなった。また「帰国後の就職・転職が心配」(23%)と回答した割合も約2倍増加。学年が上がるに連れ、学業以外で就職活動に向けたインターンシップなど、その時期に合わせた活動への参加を余儀なくされるため、長期留学という選択肢が選びづらい実情がうかがえる結果となった。

■長期留学をしたいと思わない理由は何ですか？※回答項目をあげた中から複数選択(上位3つまで)



■長期留学するうえで、就職活動に関して気になることは何ですか？

※回答項目をあげた中から複数選択(上位3つまで)

2014年のアンケート調査設問と、2015年のアンケート調査設問の表記が若干異なるため、単純比較ができないことをご了承ください。

